


研究者総覧：水戸 博之 (MITO, Hiroyuki)

氏名	水戸 博之 (MITO, Hiroyuki)	
職名	教授	
所属講座	国際多元文化専攻多元文化論講座	
学位（専攻分野）	修士（文学）・上智大学	
メールアドレス	k46240a@cc.nagoya-u.ac.jp	
個人のホームページ	http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/~mito/	
研究分野	文化史	
	スペイン語	
	ポルトガル語	
現在の研究テーマ	スペイン語とポルトガル語両言語文化圏の比較対照研究	
所属学会	日本ラテンアメリカ学会	
	日本イスパニヤ学会	
	日本ポルトガル・ブラジル学会	
主要著書・論文	「ポルトガル文法をめぐる諸問題」『言語文化論集』第 24 巻第 2 号、名古屋大学国際言語文化研究科、2003 年	
	「接続法未来の後退に関する一考察」『言語文化論集』第 28 巻第 1 号、名古屋大学国際言語文化研究科、2006 年	
	(研究ノート)「エスニック・メディアに見る在日外国人コミュニティの自己認識と日本人研究者：ブラジルチャンネル制作番組を例に」『メディアと文化』第 3 巻、名古屋大学国際言語文化研究科、2007 年	
	Vocabulário Português et Latino de Raphael Bluteau e o Japão nos sécs. XVII e XVIII depois da expulsão dos portugueses e dos espanhóis, Revista de Letras (Departamento de Letras Centro de Estudos em Letras Universidade de Trás-os Monte e Alto Douro), 6, 2009.	
	「現代ラテンアメリカにおけるカトリシズムの諸相」『言語文化論集』名古屋大学国際言語文化研究科、第 31 巻第 2 号、2010 年	
自己紹介文	<p>生れ故郷新潟を離れて 35 年が経過しました。名古屋は 17 年目です。中学生のときフォルクローレやタンゴに親しんだのが、ラテンアメリカに興味を持ったきっかけになりました。文化財関係の仕事に関心があったことから、2 年間ある美術館に学芸員として勤務した後、大学の指導教員がスペイン人司祭であったことから、1984 年から 1987 年までスペインに遊学しました。西洋古典を専攻するはずが、結局は、スペイン語に少し慣れた程度の 3 年間でした。日常的にはスペイン語の</p>	

	<p>基礎教育やポルトガル語文法の研究といった言語系の仕事が大きな位置を占める一方で、クリスチャンではありませんが、指導教員がカトリックの神父でもあったことから、西洋思想史やキリスト教に関する問題も扱っています。また、1992年ころからアルゼンチンやブラジルに各滞在は短期間ではありますが比較的頻繁に調査旅行をしています。研究発表に関しては、ここ数年、日欧交流に関するものが多く、海外のシンポジウムにも参加しています。趣味は47歳のとき始めたチェロ。バッハ無伴奏の一番簡単な3曲を毎日のお勤めのように弾いて周りから迷惑がられています。</p>
<p>受験生へのメッセージ</p>	<p>スペイン語圏とポルトガル語圏を中心とした文化史や宗教思想史が私本来の守備範囲です。やはり、スペイン語とポルトガル語の基礎が前提となります。私が近年懸念することとして、基礎語学の学習が手薄になり、フィールドワークにおいても通訳に頼る傾向があるようです。スペイン語あるいはポルトガル語の基礎的な運用力、少なくとも、最初の数ヶ月は、基礎を徹底して学び直すことに専念しようという姿勢を期待します。また、担当科目・中南米表現論演習 ab は、スペイン語とポルトガル語 2 言語の習熟を義務付けていますが、いずれか一方の言語の基礎がしっかりしていれば、他の言語への移行や学習はそれほど困難なものではありませんし、最初の言語を深く学びなおすことにもなります。研究テーマが具体的に決定した段階で、いずれかの言語文化圏が専攻分野・言語になるのはもちろん自然なことです。北米などの大学では 2 言語を主副専攻語として履修するのがむしろ一般的ですのでぜひ両言語の習熟に挑戦してみてください。なお私の指導領域いわゆるディシプリンに関しては言語圏に限定されません。近年は、欧米世界に</p>



ブエノスアイレスボリビア人コミュニ



ブラジリア市テレビ塔

	おける日本文化発信などにも興味を持っています。
--	-------------------------